

理事長挨拶

この度、前期に引き続き 2025 年 9 月 から、一般社団法人日本宇宙生物科学会・第 20 期理事長の責任ある立場を拝命いたしました。これまでの 10 名の代表を筆頭に、役員・会員の皆様が育て上げた「宇宙生物科学及びそれに関連する分野の学術研究を振興すると共に、会員相互及び国際的な連絡を図る」という目的に全力で取組んで参ります。前期では、各種委員会委員長のご尽力のもと、学生会員の年会費無償化、ライフステージに寄り添った休学制度、代議員・理事選出の見直し、学術大会での若手支援、学術大会と本会との会計一元化、関連学術大会の協賛、賛助会員の勧誘、学術の中長期研究戦略への応募、学会ホームページのリニューアルなど新たに取り組んできました。また、会員の意見を集約して、文科省宇宙開発利用部会での現 ISS の科学的利用促進の提言、内閣府へのポスト ISS への提言を実施してきました。引き続き、本領域の活性化を目指し、次世代を担う若手を含めて会員の皆様に活躍できる場を提供できれば幸いです。さらに、長期的な視野で、人類の将来を支える宇宙生物科学の発展を図って参ります。会員の皆様には、どうか一層のご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、学会設立から 38 年経過し、昭和、平成、令和と時代が移ろい、人類の宇宙進出も「夢」から「現」となりました。再び月へ、火星へ、その先へと、“人類の生存範囲の拡大”が実現する時代へと移行しつつあります。未来へ向けた宇宙生物科学の果たす役割と期待は大きい。我が国としても、JAXA を結節点とし産学官による宇宙活動を加速することが求められており、内閣府の政策として宇宙戦略基金が推進されています。宇宙では、地上と異なる重力環境、宇宙放射線環境、閉鎖環境であり非日常的な極限的ストレスに曝されます。地球上で誕生・進化、適応、繁栄してきた生物が、特殊な宇宙環境でどのように生きることができるのか？生命の起源は宇宙のどこから来たの？地球以外にも生命がいるの？実際に、宇宙視点というダイナミックな別次元で物事を捉えると、知的好奇心が刺激され、次から次へと興味は尽きません。知恵と工夫で様々な困難と制限を克服して、何年も計画・準備した愛しい生物試料が宇宙を旅するというロマンは、何ものにも代え難いものです。地球規模の課題を解決する糸口も、宇宙を舞台に研究することで初めて見えてくるのかも知れません。今こそ、会員皆様の英知の結集が必要です。さらに、新しい風を吹き込むため新メンバーの加入をお待ちしております。皆で宇宙生物科学を楽しみましょう！

第 20 期 理事長 高橋昭久

(群馬大学重粒子線医学研究センター・教授)

